

第178号
ほほえみの会
2012.10.14

ある講演会でリーダーは「自分の周りに起こる出来事は自分が作り出した結果である」という「自分が源泉」という考え方をすべきだという話がありました。その中で、大人のがん治療法に「サイモントン療法」という心理療法があると紹介されました。

この治療を受けられるのは、①自分ががんであることを知っている。②それを作り出したのは自分である。と言う考えを持てる人だそうです。カール・サイモントン医師はまず患者に聞くそうです。「あなたはいつがんになるかと決めましたか。」もちろん「自分でなりたくてなったのではない」と反発します。でも執拗に聞きます。「そういえば5年前、リストラにあつて酒におぼれました」とおめでとう。がんはあなたが作り出したんですね。あなたが自分で作ったものは、あなたが自分で消すことが出来ます。これから素晴らしい時のスタートです。」と言って、治るイメージを持つ治療が始まるそうです。

もちろん子どものがんには通用しないものですが、サイモントン医師は同じがんにかかっても治る人と治らない人の違いに気付き、この治療を始めたと言うことです。どんな状況でも悲観をしないで常に治るイメージを持ち続け、ポジティブ志向を持つことが重要のようです。

<第206回 8/12 ほほえみの会 >

5人が参加しました。堀越先生も顔を出してくれました。

▽ 4歳女の子、再生不良性貧血。北海道在住。静岡の実家に帰省中に、夜突然鼻血が止まらなくなり、夜間救急病院のこども病院に。今後免疫抑制療法に入るが、北海道と静岡の二重生活が大変。

<第207回 9/9 ほほえみの会 >

4人が参加しました。鈴木先生も参加してくれました。

▽ 高1女子、甲状腺がん。子どもは元気だが、親のほう悩み多い。病気のことは周りにも隠していて負担になっている。ほほえみの会は唯一病気の話が出来、気が楽に

なる場所。

<第208回 10/14 ほほえみの会 >

4人が参加しました。

▽ 小学4年女子、肝芽腫。退院後の生活が不安。今後、生理が心配だが、女性ホルモンは服用した場合どんな影響があるのだろうか。

<静岡県がん対策推進協議会>

10/16に大須賀副知事をはじめ約50名が集まり県庁で会議がありました。

国は今年、今後5年間を対象とした「がん対策推進基本計画」の重点課題として「小児へのがん対策の充実」を取り入れました。計画では5年以内に小児がん拠点病院を整備するとなっていますが、静岡県では昨年、既に独自に県立こども病院を小児がん拠点病院に指定しており、国に先駆けて取り組みを行っています。

今年の静岡県での重点課題は、こども病院と地域の連携病院との専門医療や長期フォローアップ、相談支援の強化と質の向上。さらに、教育委員会や学校との連携となっています。

私からは、県の小児がんに対する積極的な対策に感謝するとともに、こども病院の長期フォローアップ外来対応は、より患者視点でお願いしたい旨の発言をしました。

<静岡県立こども病院地域医療委員会>

11/2にこども病院で地域医療の連携推進会議がありました。「地域医療連携室」の報告や、日本で4箇所しかない小児救命救急センター(PICU)の現状が紹介されました。日本は、国際的に胃がんの死亡率、自殺率、そして1歳から4歳までの死亡率が特に高い。こども病院の小児集中治療センターでは13名の医師と30名の看護師が24時間体制で、依頼があれば必ず受け入れる体制をとり、ドクターヘリで運ばれる伊豆や愛知県からの子どもたちの命を救っているという報告がありました。

私からは、緊急事態に陥った小児に対して連携して命を救っているのは素晴らしい。一方で、小児がんは治る時代となって、治療後の地域医療連携が大事になるので対策をお願いしたいと話しました。

これに対して瀬戸院長からは、「長期フォローアップ外来」は1回限りの診察となっているが体制は整っているので増やせるようにしたい。また、地域病院との連携によるフォローアップは「地域連携パス」のようなものを開発したい。また、こども病院での成人診察移行問題は循環器科で特に問題となっており、近く「成人移行外来」を設置する予定で病棟の準備にも入っている、とのことでした。

次回 は11月11日(日) 11時からです
ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mail アドレス k_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>